

令和元年10月10日
独立行政法人日本スポーツ振興センター
広報室

「次世代ターゲットスポーツの育成支援」 ターゲットスポーツの新規選定について

日本スポーツ振興センター(JSC: JAPAN SPORT COUNCIL)は、将来新たにメダルを獲得する可能性のある種目を育成する「次世代ターゲットスポーツの育成支援」(以下「本事業」という。)において、新たに2024年オリンピック・パラリンピック夏季競技大会(パリ)、2026年オリンピック・パラリンピック冬季競技大会(ミラノ/コルティナダンペッツォ)でのメダル獲得を目指したターゲットスポーツを選定いたしましたのでお知らせします。

記

■新規選定ターゲットスポーツ

- 陸上競技 4×400m リレー(男子)^{※1}
- 体操・トランポリン(女子)^{※1}
- 自転車・BMXフリースタイル(男女)^{※2}
- スキー・フリースタイル/スキークロス(男女)、
スキー・スノーボード/スノーボードクロス(男女)^{※1}
- スケルトン(男女)^{※2}
- パラ水泳/S種目(男女)、SB種目(女子)^{※1}
- パラ・パワーリフティング(男女)^{※1}

※1 令和元年9月1日事業開始 ※2 令和元年10月1日事業開始

■「次世代ターゲットスポーツの育成支援」とは

- 本事業は競技力向上事業(戦略的強化事業)の1つであり、我が国のアスリートが将来、新たにメダルを獲得する可能性のある競技種目をターゲットスポーツとしている。これらのターゲットスポーツが作成する「次世代アスリート育成・強化プラン」に基づく集中的な育成・強化活動を推進する。これらの活動を通じてメダル獲得競技種目の育成・開発を図り、日本の国際競技力強化に寄与する。
- 2024年オリンピック・パラリンピック夏季競技大会(パリ)および2026年オリンピック・パラリンピック冬季競技大会(ミラノ/コルティナダンペッツォ)に向け、育成・強化に関する戦略立案、実施、検証・評価、改善といった一連の取組み(PDCA サイクル)を実施し、「MPA^{※3}数の最大化」「2024年以降を見据えた、新たな育成・強化システムの確立」を目指す。

※3 メダルポテンシャルアスリート: 世界選手権等において第8位以上の入賞実績を有するアスリート

- 本事業は平成26年度文部科学省受託事業「2020ターゲットエイジ育成・強化プロジェクト(ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化)」から始まり、平成27年度「ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化」、平成28年度「次世代ターゲットスポーツの育成・強化」、平成29～30年度「次世代ターゲットスポーツの育成支援」を経て、今までに15ターゲットスポーツに対し活動を実施してきた。平成30年度末において、2020大会向けの12ターゲットスポーツへの支援を終了し、本年5月から事業を開始している2024大会向けの7ターゲットスポーツに今回2024・2026大会向けの7ターゲットスポーツを加え、事業を推進する。

表. 平成 26 年度から令和元年度に選定したターゲットスポーツ一覧

年度	ターゲットスポーツ名(○:2020 大会向け ●:2024 大会向け △:2026 大会向け)
平成 26 年度	○卓球(男子) ○テニス(男女) ○陸上競技・競歩(男女) ○水泳・競泳自由形(男子) ○トライアスロン(女子) ○ライフル射撃(男女)
平成 27 年度	○体操・トランポリン(男子) ○バドミントン(男子) ○自転車・トラック(女子)
平成 28 年度	○水泳・競泳自由形短距離(女子) ○体操・新体操団体(女子) ○車いすテニス(女子)
平成 29 年度	●ラグビー7人制(女子) ●空手(男女) ●5人制サッカー(男子)
平成 30 年度	平成 30 年度をもって、○2020 大会向けの支援終了
令和元年度	●体操・新体操(女子) ●卓球(男子) ●フェンシング(女子フルール・女子エペ) ●バドミントン(男子) ●テコンドー(男子 58kg 級、女子 49kg 級) ●パラトライアスロン(男子肢体不自由・男子視覚障害) ●車いすテニス(男女) [今回追加ターゲットスポーツ] ●陸上競技 4×400m リレー(男子) ●体操・トランポリン(女子) ●自転車・BMXフリースタイル(男女) △スキー・フリースタイル/スキークロス(男女)、スキー・スノーボード/スノーボードクロス(男女) △スケルトン(男女) ●パラ水泳/S 種目(男女)、SB 種目(女子) ●パラ・パワーリフティング(男女)

事業概要

Vision メダルポテンシャルスポーツの最大化

Mission ①MPA (メダルポテンシャルアスリート) の最大化
②育成・強化システムの確立

